

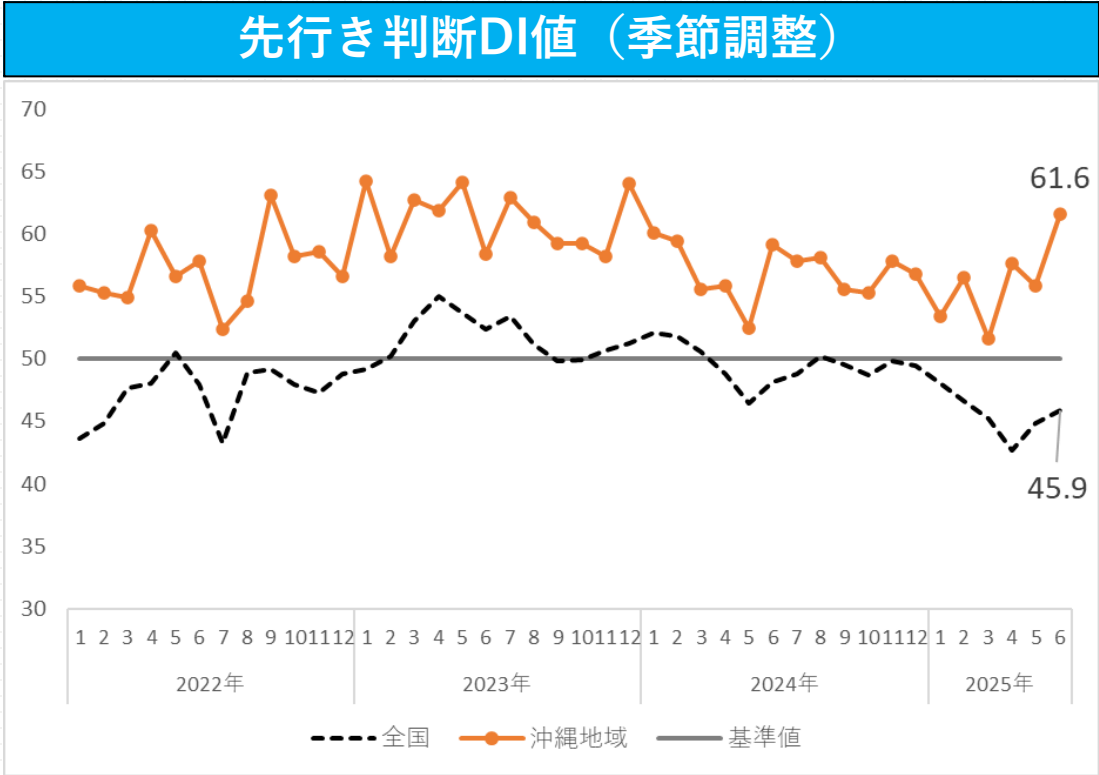
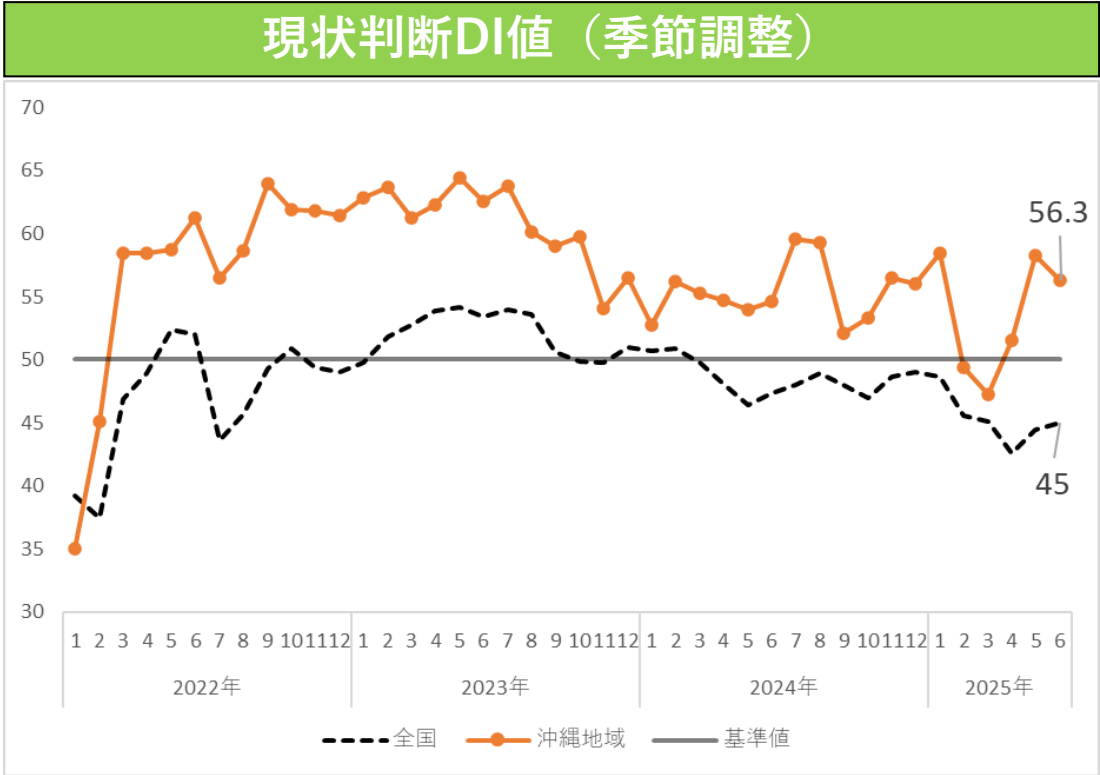
景気ウォッチャー調査 (沖縄地域) ～2025年6月調査～

物価高による県内需要の減少はあるものの景気全体の動向は好況
夏休みと大型レジャー施設開業に観光需要増加の期待感

一般財団法人 南西地域産業活性化センター

2025年6月調査DI値（季節調整値）

- 6月の現状判断DI（季節調整値）は、前月比2ポイント減少の56.3となったが、沖縄地域のDI値が3か月連続で50を上回り、好況である。
- 6月の先行き判断DI（季節調整値）は、前月比5.8ポイント増加の61.6となり、判断基準の50を上回っていることから2～3か月後の景気動向は好況が続く見通しである。
- なお、全国の現状判断DI値は45、先行き判断のDI値は45.9と共に上昇したが、判断基準となる50を下回り、不況傾向が続いている。



現状判断のコメント①

- 「家計動向関連」では、コンビニの店舗によって来客数の増減はあるものの客単価は伸びている。特にスーパーでは生鮮食品やお米の高騰により買い控えが起きているが、食品全体の売上は上昇している。
- 一方、スーパーでも店舗によっては備蓄米の販売時期が遅れたことにより客離れが起きている。
- さらに、食料品だけでなく通信会社や飲食店でも客足が遠のいていることから、県内需要全体が低下していることが現状判断DI値の減少に影響を与えたと考えられる。

＜家計動向関連＞		◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている
◎	コンビニ	1店舗当たりの来客数は前年と比べやや減少しているものの、客単価の伸びが大きく、売上を押し上げている。
○	コンビニ	行楽シーズンにより、来客数も増加しており、客単価も前年度を上回っている。
▲	スーパー	生鮮食品の値上げによる買い控えが発生している。食品類の販売数は低迷しているものの、米の売上が170%前後で上昇したことが底上げとなり、食品全体では売上は上がっている。他方で、嗜好品類を中心に前年割れが続いており、今後も継続するとみている。また、備蓄米の販売に後れを取ったため、大手の店舗に客が移動している。
▲	通信会社	明らかに販売量が減少しており、特に商業施設での販売イベントで減少している。商業施設自体の客数減少が影響しているとみている。
▲	一般レストラン	来客数が大きく減少している。音楽イベントなど行い、どうにか集客しているが、平日の来客が少なく困っている。
×	その他飲食店【バー】	今月は、週末の来客数が、平日を下回っている。近隣の飲食店も同じような状態であると聞いており、街全体で静かな気配がうかがえる。

現状判断のコメント②

- 「企業動向関連」では、建設関連において、県外から出店に向けた問い合わせやマンション、住宅見学会などの集客も多いことから、建設関連需要の増加に期待が持てる。一方で、原材料価格の影響により、利益率の減少や価格の安い木造住宅へ移行する動きもみられる。
- 「雇用関連」では、引き続き2027年卒の新卒採用に向けた動きが活発化している。求人情報関連では、人手不足が続いている観光、飲食業にて募集が継続しており、微増傾向にあることから、夏休みや北部の大型レジャー施設開業に向けた人手の確保が影響していると伺える。

<企業動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	建設業	・ 県外から沖縄へ出店するための建物建築に関する問合せが多く、沖縄への出店意欲があるとみている。また、マンションの建築計画や住宅見学会での集客も多い。ただし、住宅に関しては、RC住宅は価格が高く多くは木造へ流れている。
□	窯業土石業	・ 受注は公共・民間とも若干増加傾向であるが、原材料価格の高止まりにより利益率は減少している。

<雇用関連>

○	学校	・ 前月に引き続き2026年卒向けの新規求人、2027年卒向けのインターンシップ情報が多く出ている。それに加え、卒業生向けの中途採用の求人数が増えている。
□	求人情報誌製作会社	・ 梅雨時期は建設、農業、イベント関連など屋外作業系の求人数が一時的に減少する。一方、人手不足が続く観光、飲食業は継続募集が重なり微増傾向である。全体としては、求人数が微減している。

先行き判断のコメント①

- 「家計動向関連」では、一般小売店などのサービス関連で大型レジャー施設開業や夏休みによる観光需要増加への期待が高まっている。特に観光型ホテルでは、大型レジャー施設の開業による滞在日数の伸長を期待する声もみられる。
- 一方、依然として物価高の影響が続くとみられており、特にスーパーでは異常気象により夏野菜の高騰が懸念されている。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

◎	一般小売店【土産】	・ 大型レジャー施設開業に伴う7月以降の観光客の増加による土産の売上増加が見込まれる。
◎	コンビニ	・ 夏休みに入り、インバウンドや県外観光客の増加が見込まれる。学校が休みの間は給食もないため、中食需要も増える。周辺施設のイベント等の影響で、集客が期待できる。
○	スーパー	・ 2～3か月後の景気はやや良くなるとみられる。政府による電気・ガス料金の補助が7月から3か月間実施されること、夏休み期間の観光需要が見込まれること、そして大型レジャー施設の開業を迎えることが主な理由とみている。
○	観光型ホテル	・ 例年より早い梅雨明けによるレジャー需要の増加を期待している。更に、大型レジャー施設開業による滞在日数伸長を期待している。
○	その他サービス【レンタカー】	・ 先行きの受注状況は前年を上回り好調に推移しており、特に個人の動きは早く伸長している。今後もこの傾向は続くとみられる。
□	スーパー	・ 全国的な異常気象は、夏野菜の価格高騰につながるとみている。青果部門を集客の目玉として位置づけているため、販売促進や営業利益に大きく影響が出てくるとみている。一方、本来ならば、やや悪くなるとの回答であるが、大型レジャー施設開業による観光客、インバウンド需要の増加を期待して現状維持としている。

先行き判断のコメント②

- 「企業動向関連」では、食料品製造業において、夏の観光シーズンやお中元に向けた食品関連需要の増加が見込まれている。また、備蓄米の流通拡大により、米価格も低下傾向にあることから、観光シーズンの食品需要の増加が期待されている。
- 「雇用関連」では、2027年卒向けのイベント増加により新卒市場が活発化することが期待されている。一方、人材派遣会社や求人情報誌政策会社などからは、物価上昇による賃上げが追い付かないことや観光シーズンをピークに求人の減少が予測されることから、先行きに懸念を抱いている。

<企業動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	食料品製造業	• 今後は米価格の落ち着き、お中元に向けて需要の増加や観光シーズンに入るため、比例して食品の需要増加を期待している。
○	広告代理店	• 県内中堅以上の企業では、攻めの経営に動き出している状況もあり、徐々にではあるが、販売促進費が増加する傾向にある。

<雇用関連>

○	学校	• 夏休みにあわせて、2027年卒向けのインターンシップやオープンカンパニーが多く行われる時期である。学校への案内以外にもナビサイトなどに掲載されている案内から、多くの学生が参加することが見込まれる。
□	求人情報誌製作会社	• 求人数に大きな変化はみられないが、夏休みや観光の繁忙期を見据え、短期雇用ニーズの高まりから、観光地でのアルバイトを中心とした求人数が微増する動きに期待している。現場では、即戦力や短期アルバイト可能な人材確保を目的とした採用活動が徐々に活発化するとみている。

<用語の説明>

【景気ウォッチャー調査】

- 地域の景気を観察できる立場にある人々から、統計指標だけでは把握できない顧客の様子など日々感じている街角の景気動向を迅速に把握するため、毎月実施されている調査。

【DI値】

- 物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方方向性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回る期間が多いと景気が好況傾向にあり、50を下回る期間が多いと不況傾向にある。

【季節調整値】

- 季節的な要因で毎年同じような動きをするもの（夏になるとアイスクリームが沢山売れるなど）があることから、前月や前々月と比較する際に季節的な要因を除いた数値。

【現状判断(景気の方方向性)】

- 3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気の具体的な状況などの説明。

【先行き判断】

- 2～3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2025年6月9日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2025/0609watcher/menu.html>